



学ぶ喜び

松本 侑壬子・ジャーナリスト

何歳になっても、学ぶ喜びを知る者に幸いあれ！—アフリカ・ケニアでつい数年前に90歳まで学び続けた実在の老人についての物語である。

ケニアが英国の植民地から独立したのは、1963年。長く苦しい抵抗運動の末であった。異なる部族間の複雑な結合と争いが絡み合いながらの独立運動で、中でも、1942年にキクユ族らにより結成された秘密抵抗組織マウマウの反乱は激しく、何千人ものケニア人が投獄されたり殺害されたりした…。

これは、それから40年ほど後の話である。

2003年、ケニア政府はすべての国民に対する無償教育制度を開始した。草原の小さな小学校にも近隣から数百人もの子どもたちが押し寄せた中に、杖を突き、足を引きずって歩く老人が混じっていた。子どもだけ、と断っても断っても、毎日校門の前にやって来る。その情熱に心を動かされた校長が、周囲の反対を押し切って入学を許可し、自分のクラスに入れた。

老人はマルゲ（オリヴァー・リトンド）、84歳。小さい同級生たちと机を並べて、アルファベットや数字をノートに書きとるうれしさが全身にあふれる。校長はジェーン（ナオミ・ハリス）、うら若き女性教師だ。きりりと知的で明るく、子どもたちの心をしっかり掴んでいる。

子どもはころ貧しくて学校に行けなかった、

というマルゲは、今どうしても読み書きを習いたい理由があった。かつてマウマウの戦士だったとき、目の前で愛する妻と幼い子ども2人を虐殺され、自身は強制収容所で残酷な拷問にかけられた。そのトラウマが50年後の今になってもマルゲの心を苛む。解放後に受け取った国からの1通の手紙。肌身離さずに持っているのは、文面を自分自身で読み、理解したいからにほかならない。

マルゲは子どもたちに自分の過去の経験を語る。自由のもつ意味と重さ。学ばなければ、ヤギのような自由のない人間になってしまうよ、と。無駄に年をとっていない“同級生”の言葉は、素直に子どもの心に染みていく。そして観る者の心にも。

一方、“世界一高齢の小学生”の噂は、思いがけない波紋を呼ぶ。世界中からマスコミが学校に押しかけ、保護者の間には誤解や嫉妬が巻き起こり、マルゲは街の成人教育センターへ回されてしまう。しかし、そこにはやる気のない大人たちと理解不能な授業しかなかった。何とか元どりの学校へ、と駆け回るジェーンに売名行為だとの嫌がらせや脅迫電話が。ついに、ジェーン自身に遠くの学校への転勤命令が出されるに及んで、マルゲのとった行動は…。ここぞという時に、言うべきことを言うべき場所できちんと発言するマルゲの痛快なまでのかつこよさ。

自分を信じ、理想に向かって進む若い女性ジェーンのすがすがしさ。実際、ジェーン役のハリスは、ハリウッド娯楽大作「パイレーツ・オブ・カリビアン」でのいわくありげな黒人女魔術師役とは打って変わり、凜として美しい。英国映画（製作BBC）だが、歴史的に英国の悪辣ぶりをも手加減なく描き、子どもにも大人にも伝わる素直な感動につなげているのはさすがである。

『おじいさんと 草原の小学校』

イギリス映画（103分）／
ジャスティン・チャドウィック監督

7月30日より、岩波ホール他全国順次公開

©2009 British Broadcasting Corporation, UK Film Council and
First Grader Productions Limited. All Rights Reserved.

